

- (1) ダブルチェックの時は、薬剤名をお互いに声を出して読む
- (2) 薬剤部と相談し、コンピューターシステムを変更、アスバラKはトランサミンSと同じ引出しに入れないようにした。

#### ■ 専門家からのコメント

- 薬効の似ている薬も取り間違えしやすいため、場所を離して管理するようにする。
- 外観が類似した薬剤の扱いは、院内で統一した考えの下に管理することが重要である。
- 要因で指摘されているようにダブルチェックがマンネリ化しているので、有効でない要因を明確化し、確実な確認方法を検討する。
- 効果的なチェックができていない場合がある。
- 声を出して耳による確認は有効であり、改善策(1)は他のダブルチェックにも積極的に展開していくことが重要である。
- 最終実施時の確認を確実にする方法として、アンプルをこの時にも確認できるように残しておく。
- 病棟保管薬の管理や使用については、各施設においてその扱いについて検討する。

#### 《重要事例情報分析グループ》

内野 克喜	東京逡信病院薬剤部・薬剤部長
大井 利夫	上都賀厚生連上都賀総合病院・名誉院長
加藤 尚子	国際医療福祉大学・講師
金子 万里子	東海大学医学部附属病院・看護部次長
釜 英介	都立松沢病院・リスクマネージャー
倉山 富久子	千葉大学医学部附属病院・リスクマネージャー
嶋森 好子	元社団法人日本看護協会・常任理事

- 白石 三智 社団法人日本看護協会 会員サービス部 医療・看護安全  
対策室
- 田浦 和歌 武蔵野赤十字病院・看護副部長(リスクマネージャー)  
子
- 寺井 美峰 聖路加国際病院・リスクマネージャー  
子
- 當銘 貴世 医療法人秀和会春日部秀和病院看護部  
美
- 花井 恵子 北里大学病院中央手術部・婦長
- 平林 明美 横浜市立大学医学部付属病院・医療安全管理室
- 福留 はる 聖母女子短期大学・講師  
み
- ◎ 増子 ひさ 日本赤十字社看護婦幹部研修所・講師  
江
- 村山 純一 昭和大学病院・薬剤部長  
郎
- 山本 千恵 東京大学医学部付属病院・リスクマネージャー  
美
- ◎は班長

(五十音順)

### III. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍・雑誌等とくになし。

### IV. 研究成果の刊行物・別刷

とくになし